

く入ながら棒にて突ば、水土を引て根の間へ入る、これを水うゑといふ、然れども性濕を嫌ふ物には宜しからず、右の如くし、荒根を一度植かへたるもののかたしといふ、喜任○阿按に、是花鏡にいふ轉梁そんりょうなり、これは時節にかゝはらず移して活し易し、されど寒中暑天にはあし、凡て落葉するものは、春月芽の未生せざる前、二月三月の比、秋は落葉して後九月十月の頃よし、冬木の類は新葉を生じてかたまりたる比四五月よし、柿は二三葉を生じ、四月の頃よし、商州厚朴は四

五月よし、○中略

附 諸木砧木仕立方の事

梅は春彼岸に氣條すあいをきり、根も鉢へ入る程にきりつめ、横植にして置べし、芽少し出る頃鉢へ植付、十五日計り過て水肥一度、又六七日過て一度かけてよし、水乾けば葉落るなり、土用前に落葉すれば花付ず、又肥過ては土用芽出て花付ず、土用明て十日計り過て水肥一度、又十日計り過て一度澆ぎてよし、玄かすれば葉も落す、花格別の勢あり、鉢うゑは生かさずころさず、少しづゝ、一日に二度づゝ、水を澆ぎてよし、

桃櫻は接て畑にて芽の出る比より曲冬の初に堀りかたし置べし、よきほどにきりつめてよし、櫻は枝先迄まげてよし、切るはわるし、すべて扦木、接木ともに春分前にうゑかへてよし、○下

〔草木錦葉集緒〕草木植替手入に悪き日の事

接木、さし木、種蒔植替等に地火ぢかとある日を用ひず、大歳おとせの方に向ひて木を切らず、さいけうの方、又は節に入たる日、草木とも種を蒔ず、此外あしき日あれども、古より諸國此日は用ひず、予野忠○水敬も昔は此日を用ひざりしが、中年の頃より万事繁多にして、いつも手おくれになるゆへ、據なく手入杯に日を撰ます、

〔禁秘御抄上〕草木